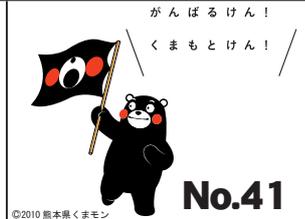


編集・発行
熊本県博物館
ネットワークセンター
宇城市松橋町豊福 1695
TEL 0964-34-3301
2018年11月1日

熊本の自然と文化

熊本県博物館ネットワークセンターだより



イベント情報 (平成30年11月～1月)

1 博物館ネットワークセンター第4回企画展「ちょっと昔のくらし探検区」

様々な道具の機械化や家電製品の普及・発達によって、私たちの生活は大きく様変わりしてきました。

「台所今昔」では、水道、家電製品、ガス製品が普及する以前の台所用具を「台所今昔」として展示しています。

また、かつては各家庭に必ず数種類はあり、身近な道具であった桶・樽・盥も展示しています。

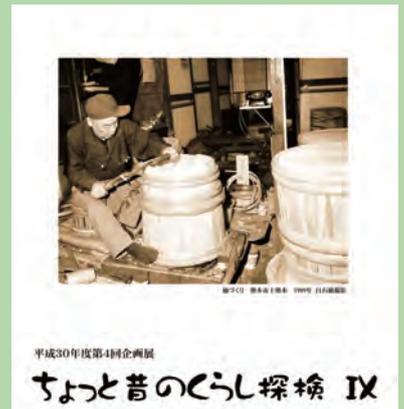
○開催期間

平成30年10月2日(火)～平成30年12月16日(日)

※月曜(祝日の場合は翌日)は休館

○会場

熊本県博物館ネットワークセンター 企画展示室



2 博物館ネットワークセンター第5回企画展「くまもとの水辺の植物」

水が豊富な熊本県に生育する水辺の植物の姿や生き方を紹介します。

○開催期間

平成31年1月4日(金)～平成31年3月17日(日)

※月曜(祝日の場合は翌日)は休館

○会場

熊本県博物館ネットワークセンター 企画展示室



ヒシ(浮葉植物の一種)

3 「フィールドミュージアムに飛びだそう！」へのお誘い

1 落ち葉図鑑を作ろう②

日時:平成30年11月25日(日) 10:00～12:00

申込期間:平成30年10月29日～平成30年11月11日

場所:大滝自然森林公園(球磨郡五木村乙字上小鶴)

落ち葉を集めて世界に一つの落ち葉図鑑を作ります。

2 水辺の冬鳥を観察しよう

日時:平成31年1月20日(日) 10:00～12:00

申込期間:平成30年12月17日～平成31年1月4日

場所:熊本市上江津湖

クロツラヘラサギなど、江津湖にやってくる鳥を観察します。



水辺の冬鳥を観察しよう(昨年度)

センターからのお知らせ

ミュージアムパートナーズクラブに参加してみませんか？



さまざまなMPCが日々活動しています
(左:地域史調査、右:シダを楽しむ会)

熊本県博物館ネットワークセンターでは、「ミュージアムパートナーズクラブ(MPC)」という団体が活動しています。さまざまな博物館活動に主体的に参加することで、熊本の自然や文化について楽しく学んでいけるクラブです。現在、大地の成り立ちや動植物、地域の歴史や文化に関する8つのクラブが活動しています。

熊本地震を契機に地域の自然や文化に対する関心が高まっています。みなさんも気の合う仲間と一緒に博物館活動に参加してみませんか？詳しくは、熊本県博物館ネットワークセンターへお問い合わせ下さい。

No. 214
動物

ドジョウ *Misgurnus anguillicaudatus* (ドジョウ科)

ドジョウ（写真1・2）は全国の水田や池、小川などに生息する、細長くぬるぬるした体の魚で、童謡にも登場するなど、昔から身近な魚として人々に親しまれてきました。10本の口ひげが生えた顔はとても愛嬌がありますが、この口ひげは感覚器官で、餌となる虫などを泥の中から探し出すのに役立てられています。

日本人なら誰もが知っているくらいに身近だったはずのドジョウですが、実は今、全国的に減少していて、環境省のレッドリストでは2013年版で「情報不足」として加えられ、最新の2018年版では「準絶滅危惧」とされました。減少の原因として水田の乾田化、水路や小川の三面コンクリート化などが指摘されているものの、その実態は減少の程度も含め、まだ十分に把握されているとは言えないようです。

熊本県では今のところ県版レッドリストへの掲載はされていませんが、やはり減少しているのか、県内でドジョウに会うのは容易ではなくなっています。人知れず減りゆくこの愛嬌者の姿が、いつまでも熊本の水辺で見られるよう、大切に守っていきたいですね。（中菌洋行）



写真1 ドジョウ樹脂封入標本



写真2 生態写真

No. 215
歴史

きりしたんしゅうもんのもののおあずかりちょう
切支丹宗門之者御預帳（八代市竹田家資料）

万治3年（1660）から天和2年（1682）までの22年間に豊後国（大分県）で多くの潜伏キリシタンが露見する事件が起こりました。この事件は、「豊後崩れ」と呼ばれ、豊後国の諸藩（府内藩・臼杵藩など）と鶴崎領がある肥後藩が長崎奉行（幕府・長崎奉行所）と連携し、22年間で豊後国内において517名の潜伏キリシタンを召し捕らえています。

この資料の表紙には、「切支丹宗門之者御預帳」と書かれ、その本文には、鶴崎領内で露見したキリシタン宗門の者79名の名前と在所村名、年齢や生所及び没年などが記載されています（写真1）。また、肥後藩預かりのキリシタン宗門の者79名の内、病死した者などについて、そして残りの64名の内、54名（男25名、女29名）を城下に集め、監禁したことが記されています（写真2）。

末尾を見ると、寛文8年（1668）申9月13日付けで肥後藩の4家老連署により、長崎奉行の松平甚三郎隆見宛てに出されたものであることがわかります。

この豊後崩れでは、肥後藩は517名の内、91名の潜伏キリシタンを召し捕っています。この資料からは、その中の79名の情報が読み取れ、豊後崩れにおける肥後藩の対応の一片を伺い知ることが出来ます。（堤 将太）



写真1 御預帳本文



写真2 御預帳本文

No. 216
植 物

コウガイセキショウモ *Vallisneria* × *pseudorosulata* (トチカガミ科)

トチカガミ科のセキショウモ属植物は、淡水性の沈水植物です。水底に根を張り、リボン状の細長い葉を水に漂わせて伸ばしていきます。

コウガイセキショウモは、熊本県を含む日本各地での繁殖が近年になって報告された、外来かつ雑種のセキショウモ属植物です(藤井ほか 2016)。雑種と言っても熊本県に分布するセキショウモやヒラモとは関係なく、ヨーロッパ原産のセイヨウセキショウモと日本を含むアジアに分布するコウガイモの雑種です。アクアリウム等で使われる栽培のものが逸出したのではないかと考えられています。その形態的特徴は、根元のロゼット茎と呼ばれる茎が伸長する傾向があることと、葉の先が丸いことです。繁殖力が旺盛で、環境省・農林水産省が定める「生態系被害防止外来種リスト」では重点対策外来種に選定されています。

写真の標本は熊本県内で採集されたコウガイセキショウモです。当センターの標本を調査した水草の研究者により、セキショウモとして扱われていた標本がコウガイセキショウモである事が分かり、熊本県での分布が証拠付けられました(藤井ほか 2016)。博物館に収蔵された資料を専門の研究者が調査することにより、それまで隠れていた自然の姿が浮かび上がってきます。(前田哲弥)

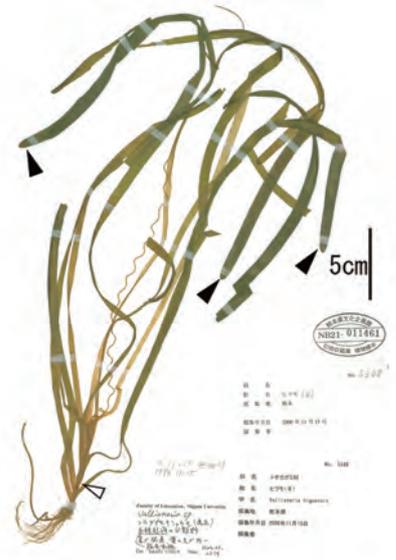


写真 コウガイセキショウモの標本
伸長する茎(△)と丸い葉先(▲)

No. 217
地 学

たくまさんざん
託麻三山

熊本市東部の託麻台地には、^{おやまやま}小山山(190m)、^{こうぞのやま}神園山(183m)、^{としまやま}戸島山(133m)の3つの山が島状に分布しています(写真1)。これらは合わせて託麻三山と呼ばれ、登山コースとして親しまれています。これらの山はどのようにしてできたのでしょうか。

託麻三山の岩石を見てみましょう。^{おやまやま}小山山で採取した岩石(写真2)は、粒が粗く硬い砂岩で、中には二枚貝の化石が入っています。その他、礫岩や泥岩といった水の中で土砂が堆積してできる岩石(堆積岩)が見られます。このことから、託麻三山は堆積岩でできた山だとわかります。

また、^{おやまやま}小山山や^{こうぞのやま}神園山などではイノセラムスという二枚貝やアンモナイト類といった時代を示す化石(示準化石^{しじゅんかせき})を産出し、中生代白亜紀後期の堆積岩からできていることがわかりました。そして、天草や宇土半島に分布する^{ひめのうらそうぐん}姫浦層群と同時期にできた地層と考えられています。

託麻三山周辺は、阿蘇火山の巨大噴火が起こる直前は堆積岩でできた山地が広がっていましたが、巨大噴火による火砕流堆積物や河川堆積物によって低い部分が埋められました。託麻三山は埋められずに残った山頂部です。(廣田志乃)

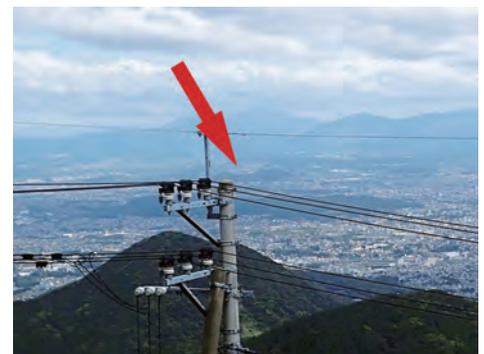


写真1 託麻三山



写真2 小山山で採取した岩石

No. 218
民俗

おけやどうぐ
桶屋道具

桶は、樽くればと呼ばれる湾曲した細長い板を円筒形に並べてたが締めて、底板を取り付けた容器です。家で使う日用品から農作業で使うもの、漁で使うもの、酒屋など商売で使うものなど、大小様々な形のものがあり、暮らしになくてはならないものでした。

熊本県では、舟運の中心地で木材の集散地であった熊本市の川尻で作られる桶が有名ですが、桶は生活に密着した道具でしたので、県内各地に桶屋がいて、注文に応じて桶を作ったり修理をしたりしていました。

写真は熊本市北区植木町の桶屋が使っていた道具一式です。12種類、70余りの道具が一つの道具箱に収められていました。

斧や鉋おのは、丸太を割り、板を取り出す道具です。湾曲した板になるよう刃が湾曲した鉋なたもあります。鋸のこぎりで大きさを揃えて切り出した板の外側の丸みと接合面の角度を桶型で計り、腹当はらあてに板を当て、刃が湾曲したせん鐵せんや丸い台の鉋かんで削って滑らかな曲線を描く樽せんを作ります。様々な大きさや形の桶に合わせてたくさんの型があります。樽の接合面は、平でピッタリ合うように正直鉋という大型の鉋で削りました。こうしてできた樽を円筒形に並べ、底板抜きで接合面に穴を空けて竹釘で繋ぎ、箍きつちを木槌や輪締へらめ、篋へらを使ってしっかりと締めます。底板はきり錐きりをコンパスのように使って丸く切り取り、野引けびきで位置を決めて槍鉋やりがんなで溝を掘ってはめ込みます。三又のみ錐ひもや鑿のみは紐や持ち手を入れる穴を開けます。

こうして様々な道具を駆使して、美しく丈夫で水漏れしない桶が出来上がるのですが、板面のわずかなデコボコの修正や樽の角度の微調整などに使われたやすり鑿やすりや刃先の変わった小刀などに、職人のこだわりが感じられます。
(迫田久美子)



写真 桶屋道具

熊本県博物館ネットワークセンター

〒869-0524 宇城市松橋町豊福 1695
TEL 0964-34-3301 FAX 0964-34-3302
Email hakubutsuse@pref.kumamoto.lg.jp
HP <http://kumamoto-museum.net/kmnc/>

[公共交通機関]

九州産交バス 松橋バスターミナルより宮原経由
八代市役所行き「希望の里入口」下車
徒歩3分

J R 松橋駅より約3km

